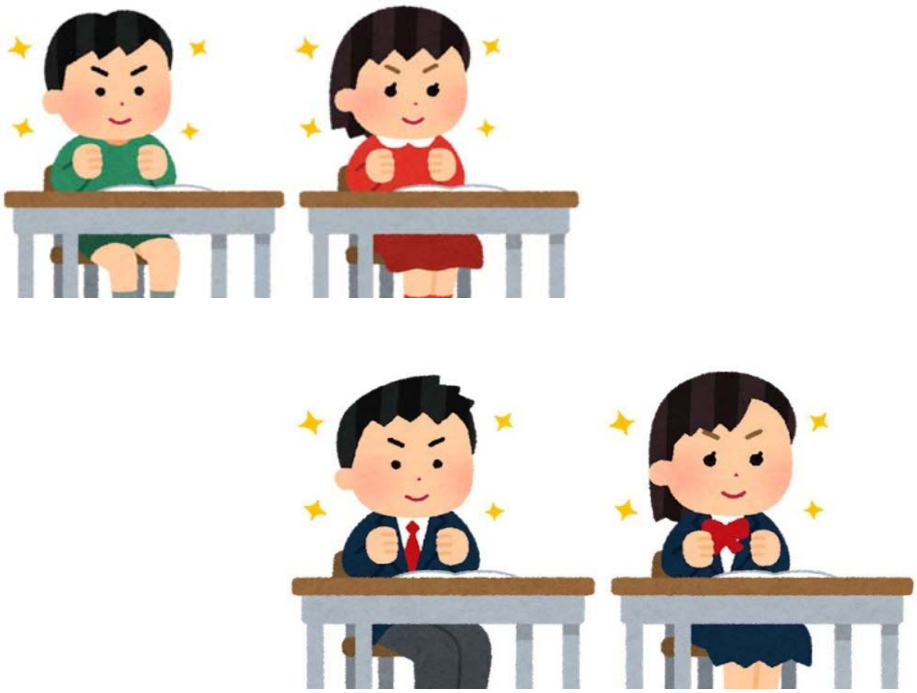
令和６年度

教育委員会の点検･評価表



大館市教育委員会

教育総務課

Ⅰ　点検・評価の主旨について

１　点検・評価の主旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければなりません。

本市教育委員会では、この法律の主旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民に対して明確でわかりやすい説明を行うため、本報告書を作成し議会に提出するとともに公表するものです。

２　点検・評価の対象

点検・評価の対象は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２１条に規定する教育委員会で職務権限とされている事務のほか、令和６年度の事務や取り組みとし、学校教育や生涯学習に関することなど、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象の範囲としています。点検・評価に当たっては、大館市の「教育大綱」に掲げる「基本理念・基本目標」に沿って、重点施策としている事務・取り組みを選定して実施します。

３　学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ること（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第２項）が求められていることから、学識経験者２名以上を選任し、点検・評価について個別に意見を聴取します。

４　報告書の作成

報告書の作成手順は、次のとおりです。

① 各課・館において、令和７年度の所管事務の点検・評価項目及び目標（重点施策点検・評価表の目標、活動内容）を作成します。（３月）※Ｒ７年度は４月

②４月上旬までに、令和６年度の実施状況と見込みを取りまとめ、報告書（点検・評価）素案を作成します。

③学識経験者から、報告書素案について意見を聴取し、報告書案を作成します。また、点検・評価の目標設定案について、意見を聴取します。（５月）

④教育委員会会議（５月定例会）で、報告書について決議します。また、点検・評価の項目内容を報告し了承を得ます。（５月）

⑤報告書を６月議会に提出するとともに、市ホームページで公表します。

目　　次

基本理念　ふるさとに学び未来を創造できる「人財」の育成	
Ⅰ　点検・評価の主旨について	頁
1　点検・評価の主旨	1
2　点検・評価の対象	1
3　学識経験者の知見の活用	1
4　報告書の作成	1

Ⅱ　点検・評価の結果について

基本目標

評価項目・内容	担当課	頁
1　信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策		
1　安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	教育総務課	3～6
2　豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		7～9
3　大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		10
2　ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策		
1　ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	学校教育課 教育研究所	11～12
2　大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する		13～14
3　学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る		15～16
4　児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める		17～18
5　学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		19～20
3　ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策		
1　ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	生涯学習課 中央公民館 地区公民館	21～23
2　市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		24～28
3　「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		29～35
4　高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		36
5　「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		37～42
6　「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		43
7　伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		44
4　郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策		
1　大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	歴史文化課	45～46
2　郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		47
3　文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		48～50
4　歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		51

重点施策点検・評価表

1－1－1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課（館）
	① 長寿命化改修等による学校整備計画の推進		教育総務課
	活動内容	小中学校25校中、8割にあたる20校が建設後30年以上を経過し、学校施設の老朽化対策を早急に講じる必要があるため、平成31年3月に策定した「学校施設長寿命化計画」を基に、建築経過年数や構造体の健全度、統廃合の見込みなどを考慮し、長寿命化改修や大規模改修の対象を選定して、学校施設の整備を計画的に推進する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 建築年の古い校舎の耐力度調査の実施により、躯体の健全性が示されたため、学校整備は「改築」から「長寿命化改修」へとシフトした。 このため、大規模改修や部位改修を計画的に進めるための中期（5か年）整備計画を策定し、令和3年度から新型コロナウイルス感染症対策及び環境衛生改善のため、文部科学省の交付金を活用して小中学校のトイレ洋式化工事を実施している。 令和6年度は山瀬小学校管理棟の屋根葺替工事を実施し、雨漏りによる漏電や内装の劣化等を防ぎ、学校施設の快適性が高められた。 また、令和7年度に全校LED照明化する計画を立て、まずは補正予算による実施設計に着手した。	
	課題等	今後も、大規模改修や部位改修を計画的に進めていくため、文部科学省をはじめ各種交付金・補助金を活用し、積極的に子どもたちの教育環境の整備を進めていかなければならない。 このため、改修内容や必要経費を算出した上で、緊急度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施していく必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	トイレ洋式化工事は、学校からの要望も多く、特に低学年児童にとっては急務だと感じている。 水銀ランプなどが製造中止のため、次年度に全校LED照明化工事に向けていち早く取り組むことで、教育環境の向上とカーボンニュートラルの実現に大きく貢献すると思われる。 課題は多いが、学校の将来ビジョンを見据えながら、改修などを着実に進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1－1－2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課（館）
	② 学校の維持改修・修繕などの経年劣化対策実施による学習環境の整備		教育総務課
	活動内容	施設や設備の改修・修繕が必要な箇所や、学校・PTA等から要望がある改修箇所は次年度の予算要求前に調査をし、小規模から中規模のものは改修内容の分類や必要経費を算出した上で、危険度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施する。 大規模改修や年次計画による改修工事等を計画する場合は、国の交付金を活用して実施を検討する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		老朽化に伴う改修・修繕は、計画的な施工のほか突発・緊急的な事故等にもすぐに対応し、学校運営に支障をきたさないよう適切に処置した。 また、次から次へと破損や故障が発生するため、即座に緊急度や優先順位を判断し、限られた予算を最大限に活用して対応した。 令和5年度の小中学校の要望に対する実施率は3割を超えたものの、6年度は3割弱となった。厳しい予算事情の中でも可能な限り、学校・PTA等からの要望に答えるよう努力している。	
	課題等	学校・PTA等からの要望は、老朽化が進む校舎や設備に対する改修がほとんどで年々増加する一方だが、教育活動が止まることのないよう緊急対応や突発的な修繕を優先せざるを得ないため、要望改善の対応がまだ不十分である。 今後は将来的な見通しのもと、選択と集中の方向で、実現可能な施策の情報収集と予算の確保に努めていく必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	限られた予算の中で要望に応えるため、職員が自ら作業したり、突発的な故障などにも対応し、おおむね3割実施できたことは有り難いこと。 物価高騰による工事費増大の影響が今後もあると考えられるが、子どもたちの学習環境に支障をきたさないよう、緊急度と安全性を考慮しながら整備を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1－1－3

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課（館）
	③ 防犯対策の強化による安全な教育環境の確保		教育総務課
	活動内容	統一した防犯対策方針に基づき、学校の児童生徒昇降口と職員等の出入口に防犯カメラや報知音発信装置等を設置して学校に対する犯罪企図者の侵入防止を図り、安心できる教育環境を整備する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		設備老朽化により更新を希望していた、小中学校の屋内外の防犯カメラ、モニター、レコーダー等の防犯対策施設を整備し、不審者の侵入対策をしたことにより、児童生徒及び教職員の安全と保護者の安心に寄与した。 忙しい教職員にとって、解像度の高いカメラやモニター等、新しい機器は来訪者の確認に有用なものとなった。	
	課題等	当初の予定では、国の交付金を活用した事業であったが、他の交付金メニューが優先となったことにより不採択となったため、すべて市費での対応となった。 次年度は未整備の学校を計画していたが、学校の統廃合計画を視野に入れ、精査したうえで8年度以降の計画を検討する。	取組の方向性 □ 継続 □ 廃止検討 ■ 単年度
	学識経験者等意見	国の交付金が不採択となったことは残念だったが、県外では学校への侵入事件が度々起きているため、市の予算で9校の防犯対策設備を整備できたことは有り難く、子どもたちの安心安全に大きく寄与したと考えられる。 今後は、大館でも進入トラブルなどが発生しないよう、この防犯機器を活用して保護者をはじめ学校訪問者を分析し、危機管理につなげていくことも大切だと思う。	

重点施策点検・評価表

1－1－4

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課（館）
	④ 会計年度任用職員（校務主事等）の適正な人事管理		教育総務課
	活動内容	小中学校に配置している校務主事など、教育総務課で任用して給与の支払いや服務に関して管理している会計年度任用職員は50人を上回る。 配置校によって勤務時間や勤務条件も多種多様で中途退職者も多いことから、適正な人事管理により児童生徒の学校生活を支援し、より良い教育環境づくりを進める。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 校務主事等に年度途中の退職者が1名発生したが、ハローワーク等を通じて随時補充し、学校運営や教育活動に支障をきたすことなく適正に管理した。 校務主事に対して教育する必要がある安全衛生講習会（草刈り作業講習、雪下ろし作業講習）を年2回実施することができた。	
	課題等	現業職場安全衛生管理委員会要綱に則り、毎年実施している安全衛生講習会など、正職員と会計年度任用職員に対して実施する必要がある教育について、今後もスキルの向上につながる教育の機会を確保して、安全・安心な教育環境づくりを進めていく。 また、校務主事に関しては、正職員（再任用職員）の退職により、会計年度任用職員が増えてきているため、本格的にアウトソーシング（業務委託等）の準備を進める段階にきている。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	学校の環境整備に努めている校務主事の果たす役割は大きいため、欠員になっても早急に補充していただいていることに感謝したい。 安全衛生講習会は人命にも関わる大切な研修であることから、今後も継続していただきたい。 人材確保が難しくなってきている現状において、アウトソーシングは時代の流れだと思う。課題は多いだろうが、子どもたちを見守りながら持続可能な体制を整えられるよう進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課（館）
	① 社会教育施設の適正管理		教育総務課
	活動内容	施設の運営に直接影響を及ぼす高圧気中開閉器更新工事（比内公民館）、コンデンサ取替工事（上川沿公民館）やファンモーター・ユニット修繕（北地区コミュニティセンター）など、施設利用者に配慮しながら作業を遅滞なく実施し、施設の良好な環境を維持する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 比内公民館の高圧気中開閉器更新工事は9月末、上川沿公民館のコンデンサ取替工事は10月末に完了した。 北地区コミュニティセンターのファンモーター・ユニット修繕も11月には完了した。 建物や電気設備等の点検結果を踏まえて、老朽化した設備の維持・更新に対応し、適正に管理した。	
	課題等	各公民館の大規模な改修工事については一段落したが、他の社会教育施設は老朽化が進んでおり設備の故障が増えている。 今後の設備の改修・整備には適切な更新計画を作成し、進めていく必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	法令で定められていることへの対応はやむを得えないが、社会教育施設は数が多いため、計画的な修繕実施が重要だと思われる。 建物や設備の老朽化により、修繕の必要箇所が年々増加していることから、将来計画について担当課と協議を進め、安定的な施設運営に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課（館）
	② 社会教育施設の充実と安全性の確保		教育総務課
	活動内容	栗盛記念図書館の老朽化した地下重油タンクの内面ライニング工事等を行い、設備の機能維持を図る。 中央公民館と鳥潟会館は経年劣化した屋根の部分改修工事を行う。また、各施設の破損や故障には応急処置などで対応しながら速やかに必要な予算を確保して修繕や改修を実施し、安全な利用環境を確保する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 栗盛記念図書館の地下重油タンクの内面ライニング工事は8月末に、中央公民館の屋根改修工事は8月、鳥潟会館の屋根改修工事は10月に完成した。 多くの施設が老朽化しているため、緊急に修繕を要することが頻繁にあったが、限られた予算の中で精査・工夫し、利用者の安全や施設の運用に支障がないように速やかに対応した。	
	課題等	学校施設と同様に社会教育施設も老朽化が進み、建物や設備の故障が増えてきている。利用者の活動や事業実施に支障がないようにしながらも、全体として維持のありかたを検討し、計画的に改修・整備をする必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	社会教育施設は、年間を通じてさまざまなイベントがあり、市民の利用度も高いため、施設を休止することなく整備を実施していただいていることに感謝したい。 鳥潟会館の庭園が国の名勝に指定されたことで、今後、観光客が多くなると予想されることから、建物についても担当課と連携して保全に力を入れ、大館の財産を長く守っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1－2－3

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課（館）
	③ 廃止した社会教育施設の保全		教育総務課
	活動内容	利用廃止となった勤労青少年ホームの上階部分を解体し、防水処理や落下防止等の安全対策を施して近隣住民の不安解消と安全確保を図る。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 当該施設の立地が急傾斜地であるため、土留めとして1階部分を残し、上階部分は計画通り解体した。 屋根に代わる上部は、防水処理を施して人が立ち入らないよう柵を設置した。コストを抑えながら近隣住民の安全確保と不安解消が図られた。	
	課題等	立地の事情から、現時点では安全とコストの両面から最善の方法として実施した工事だが、将来は土砂崩れを避ける整備と併せた1階部分の解体が必要になるため、財源の検討をしながら計画を立てる必要がある。	取組の方向性 □ 継続 □ 廃止検討 ■ 単年度
	学識経験者等意見	使われなくなった施設は、倒壊の危険性や不審者の侵入なども考えられる。 地形を考慮した解体方法により、近隣住民の不安解消と安全安心な環境整備がなされたことは良かった。 将来は、隣接する施設の廃止計画に併せて、恒久的な対策を進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		担当課（館）
	① 教育委員会施策の情報発信の強化		教育総務課
	活動内容	毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。 教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。 教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		教育委員会会議及び総合教育会議の議事録、教育委員会事務事業の点検・評価結果など大館の教育が取り組む活動内容について理解を深めていただくため、市ホームページで公表した。 また、地元新聞社への掲載を依頼したり、一部事業についてはSNSを利用した情報発信も行った。	
	課題等	大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、本格的なSNS等を活用した発信手段も検討する。 また、市民への情報発信として地元マスコミ報道が有効であるため、積極的に報道機関を活用していく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	ホームページなどのインターネットや新聞などは、教育委員会の各種会議をはじめ、教育ツーリズムや各学校の取り組みなどを情報発信できる有り難いツールである。 これにより、市民を含む多くの人が、大館の教育について理解を深めることができるのはとても良いことだし、情報を見た人から激励やアイデアなどの意見をいただく可能性もある。 今後も充実した情報発信を続けていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	担当課（館）
	①「主体的実践力」強化の視点から、ふるさとキャリア教育を進化・深化	学校教育課 教育研究所

活動内容

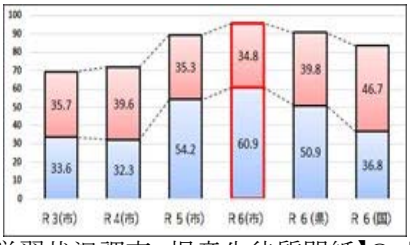
ふるさとキャリア教育13年目を迎え、これまでの各校の百花繚乱作戦や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取り組みを一層充実させるため、子どもの「主体的実践力」を強化するという視点から振り返り価値づけていく。そして、子どもたちが大館盆地を学び舎に「ひと・こと・もの」へ主体的に関わることで、ふるさとへの愛着を深め、「未来大館市民」として成長するための教育的効果を高めていく。

点検評価

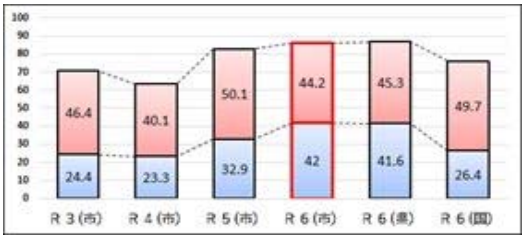
- □ 目標を上回る　（達成率100％超）
- ■ 目標どおり　（95～100％）
- □ 目標をやや下回る　（80～94％）
- □ 目標を大幅に下回る　（80％未満）

【全国学力・学習状況調査　児童生徒質問】Q：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

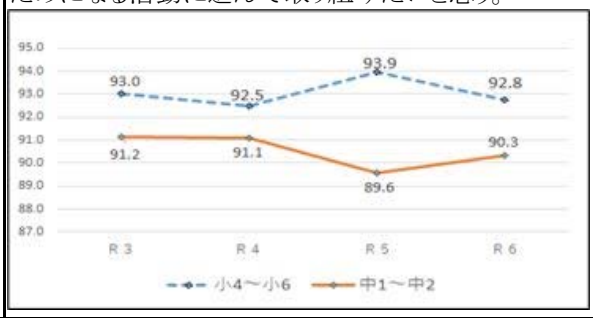
小6



中3



【県学習状況調査　児童生徒質問紙】Q：地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う。



どちらの結果を見ても、地域社会のために行動をおこしたいと考える児童生徒の割合が非常に高い。
(1)子どもハローワーク参加人数はのべ約1250名となり、昨年度より100名増。
(2)子どもサミットの運営委員が家電リサイクルプラントを見学し、議場で行われた代表会議にて報告。
(3)各学校の百花繚乱作戦が、新聞に多数掲載。

課題等

(1)子どもハローワークについては、受け入れ先が少しずつ増え、児童生徒の参加数が増えていることは大変喜ばしいが、新たな体験場所を開拓したい。
(2)子どもサミットにおいて、継続してきた活動の他にも取り上げたい議題はないかサミット委員に考えさせたい。
(3)今後も各学校における百花繚乱作戦において、地域の人たちと積極的に関わる活動を継続し、児童生徒の社会的使命感が高まるよう期待している。

取組の方向性

- ■ 継続
- □ 廃止検討
- □ 単年度

学識経験者等意見

事業の立ち上げから担当がどれほど難儀したか、現場でも対応がどれほど困難であったかを理解している。子どもハローワークや子どもサミットと良い結果が出ている。子どもたちの成長も含めて実績を学校へフィードバックし、管理職などへの意識付けを図って続けてもらいたい。成果としては、これまでベクトルが学校から学校外へ向けられていたが、今は地域から学校へベクトルが向かっている印象を受ける。現場の先生も含め子どもたちの意欲感を高ぶらせ、事業を継続しているようで感心している。

重点施策点検・評価表

２－１－２

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める		担当課（館）
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実		学校教育課 教育研究所
	活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。特に不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、欠席状況の実態を正確に把握し、年度の切り替わりにおける情報の引き継ぎを確実に行うことで、切れ目のない支援体制を構築しながら、学校への情報提供や助言をこまめに行う。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 不登校及び不登校傾向の児童生徒数は、昨年度に比べ微増傾向にあるが、成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、各校での一人一人に応じた具体的な支援や対応、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。 昨年度から、不登校及び不登校傾向の児童生徒及び保護者が悩みを抱え孤立することなく、必要とする情報や支援を得られるように、市内の相談機関等で扱っている活動内容について「子ども、保護者、家庭サポート窓口」として取りまとめ、全家庭に周知している。このことがきっかけとなる相談も増えている。また、これまで市教育研究会学校保健部会が中心となってメディアコントロール力向上に向けた活動が進められていたが、今年度は子どもサミットによる活動として位置付け、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう様々な取り組みを行っている。	
	課題等	不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中には、メディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、一人一人の児童生徒に応じた各校における支援体制づくりと組織的対応が迅速に進むよう働きかけをしていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	不登校児童生徒数の増加は大きな課題であることは間違いなく、さまざまな対策を講じていることに評価したい。特別支援学級編入へのいわゆるグレーの子どもたちについては子育て相談会でいろいろな発見があると思う。相談役が専門的に話をしてくれることで保護者の悩みを把握し、安心させ家庭を自立させながら気付きを促す。保護者への「気づき」の促進、発言という面からも学校関係者より相談会での相談員が適していると思われる。また、話す内容を見極める力も必要といえる。いじめに関し、最近他市で校舎侵入事件があった。当市でも万が一に備え対応が後手後手にならぬよう、子ども同士のトラブルや問題行動を「問題だと認識できなくなる」ことにならないように併せてお願いする。	

重点施策点検・評価表

２－２－１

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する		担当課（館）
	① 教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現		学校教育課 教育研究所
	活動内容	ふるさとキャリア教育が掲げる理念の先見性、生み出す活動のクォリティ、織り成す組織のアクティビティなど公教育における先駆的、先覚的、先導的教育実践を追求し、教育ツーリズムを通して、参集を希望する志ある全国の教員が、あるべき教育の姿を語り合う場を設定する。	
	点検評価	□ 目標を上回る　（達成率100％超） ■ 目標どおり　（95～100％） □ 目標をやや下回る　（80～94％） □ 目標を大幅に下回る　（80％未満）	
		令和6年度の教育ツーリズムによる訪問要請の受け入れ実績は、実人数がおよそ770人、交流都道府県も20を超えている。令和5年度は東北市町村教育委員会連合会の開催地となったため、実人数が1，000超であったが、令和6年度は全国小学校キャリア教育研究大会を実施し、全国広範囲との交流が実現した。これにより、大館市教育委員会と交流実績のある都道府県が全国47都道府県に達した。 今年度の教育交流では、視察プログラムの中に、「教育実践についての懇談の場」を設定し、学力向上等施策にかかる協議を視察団体が進行役となって進めていただくこととした。これにより、受け入れ校においては管理職のほか、研究主任、もしくは特色ある授業実践を展開している教員等の同席が見られるようになり、自校の中核的教員等人財育成に活かそうとする管理職の意識の高まりがみられた。	
	課題等	令和6年度は、視察依頼等の各校への均等な振り分けに一定の成果が見られた。これは、校長会が「計画的な視察」にかかる調整役を主体的に行ってくれたことが大きい。事務局の情報を積極的に各校で共有しながら、受け入れにかかる要望や課題等についても早い段階で協議することができた。 大館市教育委員会事務局としては、外部教育関係者との交流を通して、「大館市公立学校教員の資質向上に役立てる」という本質的なねらいを常に持って調整を図っているが、各校の受け入れ対応等には、学校ごとに差異が生じていることも事実である。今後は、大館市の教員が「外に出向いていく交流」も意識し、教育交流と人財育成の関係性をより実感できる方策を考えていきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	方法を変えながら、市内の教職員を育成していこうという取り組みがみられる。 教育実践についての懇談の場を設けたこと、校長会が視察の調整役を主体的に行ったことは画期的だと思う。 ここから更に、一歩でも半歩でも先に行くために、視察があることによって市内の教職員だけでなく、児童生徒も意識が高揚し、（視察先を）積極的に受け入れながら（視察先から）積極的に学ぼうという姿勢が芽生えることを切望する。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する		担当課（館）
	② ふるさとの価値を多面的かつ広域的に捉える機会の充実		学校教育課 教育研究所
	活動内容	子どもサミットや海外研修等の活動を通して、ふるさとキャリア教育による学びを通じて成長した児童生徒が、全国や世界の視点からふるさと大館を見つめることで、豊かな未来についての想像力や思考力、社会に働きかける実践力などを伸長するとともに、その姿を積極的に地域に発信する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		子どもサミットについては、年2回の代表会議を庁舎議場で開催されるようになってから、多くの市議会議員の皆様や学校関係者、保護者にも参観いただき、小・中学生の視点で「大館市をよりよくする方法」を考え、提案、情報発信をする場となっている。昨年度は、特に、子どもたち自身が「メデイア依存に関わる諸問題」を自分事として捉え、各校で特色あるメデイアコントロールの活動を進めた。自校の活動にとどまらず、中学校区で連携をし、縦のつながりのある活動を展開した学校もある。今後も、未来大館市民のリーダーとしての気概を高め、「地域のために、学校のために私たちにできることは？」について考え、取り組んでいく予定である。 海外研修については、研修の充実を図るため、全6回に渡る事前学習会を実施し、日常英会話の他、昨年度の研修生による講話を聴いたり、研修先での生活経験者から現地の生活や研修の際のアドバイスを受けたりなどの学習を行った。研修先のニュージーランドでは、文化施設や学校訪問、ファームステイ等の体験活動を行い、異国の歴史や文化に触れ、日本との違いや互いのよさに気づいたり、ふるさと大館や自己を見つめ直したりすることができた。	
	課題等	年2回の代表会議後には、参加した代表委員が自校で報告や伝達を行っているが、その方法等については学校間に差があるように感じる。各校の担当者にしっかりと働きかけ、子どもサミットの共通実践事項が徹底されるようにしたい。 物価高騰の折、海外研修においては、保護者負担が年々大きくなっているのが現状である。生徒の成長にとって大きな効果を与える本研修であるため、今後も広く門戸を開き、多くの生徒にとっての貴重な学びの場として継続していきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	教職員と違い、子どもたちは自校と他校とを比較することがあまりないことから、子どもサミットは子どもたちの視野を広げることができる貴重な取り組みと考える。 当初は、あいさつ運動やプルタブ、ペットボトルキャップ集めの活動であった。震災後は釜石市との交流が始まったが、他校の考え、他校の取り組みを知ることで、大館の子どもたち、自分たちの力で何ができるのかということを新たに模索し開拓して取り組んでいってほしい。 海外研修も物価高騰の折、予算化が大変だと思うが、ぜひ続けていってほしい。	

重点施策点検・評価表

２－３－１

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る		担当課（館）
	① 就学前教育及び中等・高等教育とのつながりを重視した「教育の縦の基軸」の強化		学校教育課 教育研究所
	活動内容	幼保小架け橋プログラムにより策定した幼保小の接続カリキュラムを、すべての小学校やこども園等が実践できるようにするとともに、地域の県立高等学校、特別支援学校、大学等のリーダーの方々と教育理念や教育実践について議論を交わす「教育懇談会」の開催を通して、教育ベクトルの一体化を図り、未来大館市民に直径する縦の機軸を強化する。	
	点検評価	□ 目標を上回る　（達成率100％超） ■ 目標どおり　（95～100％） □ 目標をやや下回る　（80～94％） □ 目標を大幅に下回る　（80％未満） 文部科学省委嘱事業「幼保小の架け橋プログラム」のモデル自治体として、市内全ての小学校が接続カリキュラムを策定した。カリキュラム作成作業、さまざまな連携や交流活動を通して、園と小学校の信頼関係が構築され、共に架け橋期の子どもたちを育てる機運が醸成された。 7月に開催された「教育懇談会」においては、各小・中学校、高等学校、支援学校、短大及び大学のキャリア形成に係る取り組み状況や、各校の児童生徒、学生の実態を踏まえた「未来大館市民」の育成についての成果や課題、そして今後の展望等について協議を行った。	
	課題等	完成した幼保小の架け橋期のカリキュラムに基づいて、全小学校・園が連携や交流、日常の授業・保育の改善に取り組むことになる。引き続き、幼保小の架け橋プログラム促進事業を活用して架け橋コーディネーターを配置し、新たなモデル地区（有浦小・扇田小）を指定しながらカリキュラムを検証し、幼保小連携を一層推進する。 大館への愛着や地域に貢献しようとする意欲を、定住、地元就職、地域社会への参画意識へつなげるための方策について、引き続き「教育懇談会」の場において協議を進める。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	幼保小にしても、小中にしても、中高にしても節目のあるジョイント部分に力が込められており、未来大館市民のために「教育の縦の基軸」が一貫して盛り込まれた施策であり、大変評価出来る。 教職員だけでなく市教委のバックアップがあってのものであるため、 地道に続け、また熱い想いを込めていってほしい。 将来の成果が楽しみな施策である。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る		担当課（館）
	② 地域住民や民間企業等との連携等「教育の横の基軸」の生かしたスクール・コミュニティの形成		学校教育課 教育研究所
	活動内容	学校が核となり、地域住民や民間企業と連携した多様な教育活動を創出することで、主体的対話的なスクール・コミュニティを一層活性化するとともに、そこから生まれる様々な発想の実現を通して社会的有用感を育て、社会変革力や実践力の育成を図る。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		令和6年度、市内10の小学校が創立150周年を迎え、各校では地域とのつながりを深めるさまざまな記念事業が行われた。このうち、桂城小学校では地域の名物や名所、行事を取り上げたオリジナルかるたの作製、花岡小学校と川口小学校では記念花火の打ち上げ、西館小学校では子どもたちのメッセージを書き込んだランタンで夜空を彩るなど、地域の方々とともに各校で工夫を凝らした記念イベントが盛大に行われた。 各校の学校運営協議会委員は、記念事業の実行委員になるなど、積極的に事業に参画し、学校と地域をつなぐ重要な役割を果たした。 学校運営協議会の設置状況及び委員数 小中単独22協議会、小中合同協議会3協議会（6校） 各校の保護者や地域住民など延べ257人	
	課題等	令和5年度に全ての小中学校（城西小除く）にコミュニティ・スクールを導入し、各校の保護者や地域住民など、延べ257人を学校運営協議会委員に任命した。任期は2年間であるため、令和7年度に新たに任命する必要がある。 委員の任命は、各校長からの推薦をもとに決定するため、各校との連携を密にし、手続きを進める。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	地域住民、民間企業との「横の基軸」であるこのコミュニティスクールを導入した初年度は困難であったと思う。難しくせず、新しいものをどう工夫して活用して行くかだと思う。 PTAそのものが他市の中学校のように解体という事が大館はないと思うし、こういった事業は効果的と判断する。在籍校の保護者だけでなく、地域を巻き込みながら学校に協力できる体制が整っていることは大館の強みだと思う。 150周年記念事業もこういった方々の協力があるから執り行える。非常にありがたい事業である。事業終了した後などに子どもたちが達成感を感じている事は教師冥利に尽きる。	

重点施策点検・評価表

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業（響学）」の質を更に高める。	担当課（館）
①	児童・生徒主体で進行・展開していく「おおだて型授業（響学）」の推進	学校教育課 教育研究所

活動内容

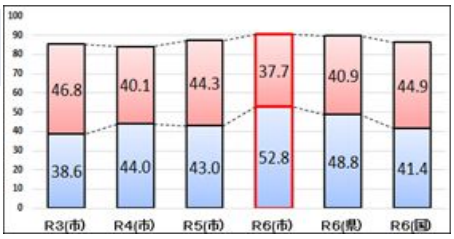
「おおだて型授業＝共感的・協働的学び合い（響学）」の質を更に高めるため、「教育パートナー化」を推進する。児童・生徒が学びの主体となり、違いや良さを認め合いながら進行・展開していく授業を目指し、学校訪問等を通して各校に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会で発行する「SHI・N・KA」に、第0次学力向上に関する提言についての各校の効果的な実践をまとめ、全教職員に周知を図る。全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の児童生徒質問紙の「おおだて型学力」に係る項目について、データの分析を継続していく。

点検評価

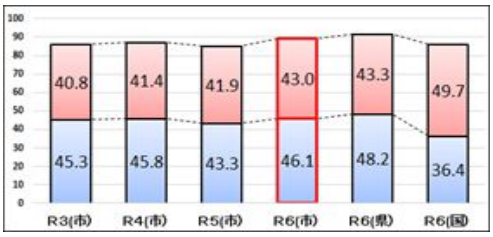
- □ 目標を上回る　（達成率100％超）
- ■ 目標どおり　（95～100％）
- □ 目標をやや下回る　（80～94％）
- □ 目標を大幅に下回る　（80％未満）

【全国学力・学習状況調査　児童生徒質問】Q:学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。

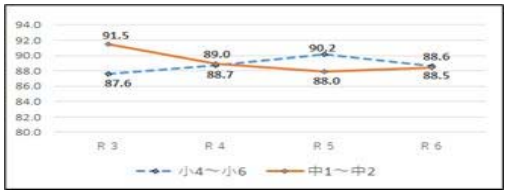
小6



中3



【県学習状況調査　児童生徒質問紙】
Q学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。



どちらの調査も肯定的回答の割合が小学校・中学校とも約90％前後を維持している。これは、おおだて型授業の真髄である「響学」を通して、自分と違う他者の思考に寄り添い、共にゴールを目指す学び合いが、小学校から中学校へと継続して行われているからと考えられる。

課題等

令和6年度全国学力・学習状況調査（学校質問）からは、一人一人の資質・ 能力の育成に向けた授業の充実について、教職員が課題意識をもっていることが分かった。「児童生徒が自分の考えを相手に伝わるように工夫すること、教師が一人一人に目を向け、集団の学び合いの中で個を更に高める支援をすること」に課題があると考えられる。おおだて型授業を通して子どもたち一人一人の資質・能力を更に伸ばしていくためには「子どもの質の高い学び」と共に、「学びを支える適切な指導・支援」という2つの視点が必要不可欠であると考える。

取組の方向性

- ■ 継続
- □ 廃止検討
- □ 単年度

学識経験者等意見

おおだて型授業の長年の成果が大館の子どもたちの姿に表れている。一人一人の成長に差はもちろんあるが、個が向上することによって集団が伸びていく。響学を大事にして子どもたちを育てて欲しい。子どもを主体とした授業が本来の授業である。始めと終わりと指示に従うという学習ルールがおろそかにならないように教職員の指示はできるだけ少なく、集団には個の差があるのでそれを陰ながら支えて、一人一人を置き去りにしない寄り添った学びをしてほしい。また、若手教職員のレベルアップも必要となるだろう。

重点施策点検・評価表

２－４－２

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業（響学）」の質を更に高める。		担当課（館）
	② 「おおだて型授業（響学）」の実効性を高めるツールとしてICTを効果的に活用		学校教育課 教育研究所
	活動内容	・各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用を支援する。 ・校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるようにデータを蓄積していく。 ・学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 市内25校でのICT活用支援のため、市教委にICT支援員を1名配置し、各校の要望に合わせ、実際に出向いて支援にあたっている。また、各校ではICT活用推進委員が中心となり、授業におけるICTの効果的な活用が進められている。年2回行われるICT活用推進委員会では、ICTの活用に関わる成果点と課題点を協議し、改善点を次年度につなげている。秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙の結果においても、数値の上昇が見られる。 秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙（小4～中2の平均）においても、ICTに関わる項目において、全て県平均を上回っている。（県を100とした市の指数） 1．普段の授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使用していますか・・・・・・・・・103.3（R5：97．1） 2．あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どのくらい使用していますか・・・・ 102.9（R5：95．8）	
	課題等	各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用に躊躇している学校を、重点的に支援する。 校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や、各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるように蓄積していく。 また、学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	私の教師時代は、せっかくの機器を使いこなせない教職員が多く、それに合わせた研修も多く行った。機器の発達もあるだろうが、現在は教職員がこぞって使用しているようで安心した。 予算確保した市教委やICT支援員をはじめ、関係者の皆さんに感謝する。 学校の壁、垣根を越えた授業をこれからも拡散し続け、身になるような授業展開を楽しみにしている。	

重点施策点検・評価表

２－５－１

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		担当課（館）
	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築		学校教育課 教育研究所
	活動内容	・現行学習指導要領に則った、英語教育をはじめとする各教科・領域のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。 ・特に小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小・中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。 ・電子黒板、タブレットパソコン、デジタル教科書やデイジー教科書の効果的な活用により、教育の更なる充実を図る。	
	点検評価	■ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 教育課程の計画・報告の点検、学校訪問等での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。特に小学校は教科書改訂に伴う各教科の年間指導計画も改訂され完全実施となり、購入したデジタル教科書・教材を活用した授業改善が進んでいる。同様に中学校の来年度からの各教科の年間指導計画も中学校教育課程編成委員会によって策定済みである。 市としての課題となっていた外国語に関しては、小中の連携、学力面でも一定の成果を得て、小学校英語教育推進委員会を発展的解消とした。秋田県学習状況調査において、中学校1年生が県比102、2年生が県比103、「外国語が好きだ」についても1年生が105．9、2年生が107．3と向上した。 全小学校の全授業に外国語活動支援員を派遣しており、昨年度までの課題となっていた「読む」「書く」についても学習到達度調査（CRT)において5・6年生が全国平均を大きく上回る結果となった。	
	課題等	外国語のコミュニケーション力を一層高めるために、各小学校への外国語活動支援員の配置、電子黒板の更新については予算の確保に努める。 また、教科書のデジタルコンテンツが充実する中、子どもたちが主体的にタブレット・パソコンを活用して学びを進める環境整備を推進する。	取組の方向性 □ 継続 ■ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	これまでの大館の教科課題というか弱点は、全国や全県と比較しても英語であった。それが小学校英語教育推進委員会を発展的解消し、県学習状況調査でも学力が向上したことは喜ばしい。 英語が小学校で教科化され、関係者の努力により大館では成功したといえるのではないか、嬉しい驚きである。一丸となって何とかしようとする熱意のたまものであろう。「教育の縦の基軸」がここでも生かされていると思う。しかし、慢心せず引き続き頑張って欲しい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		担当課（館）
	② 学校と行政の連携により個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備		学校教育課 教育研究所
	活動内容	・GIGAスクール構想により導入した1人1台タブレット端末の更新を円滑に実施するため、次期導入端末や多様化する学習支援ソフトの選定を学校との連携を図りながら進める。また、校内通信ネットワーク環境の改善とセキュリティ対策の充実についても検討する。 ・現在の校務支援システムの更新を見据え、クラウド型の統合型校務支援システムの導入を検討する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		児童生徒1人1台端末の整備は、国のGIGAスクール構想により令和2年度に整備し、その年の12月から5年間のリース契約により現在に至っている。このリース契約も本年11月末で終了し、加えてWindows10のサポートも10月で終了することから、国の補助金を活用して児童生徒用タブレット端末などを令和7年度中に新規整備する。また、前回整備できなかった教員用端末も新規に整備する。 校内通信ネットワーク環境の改善とセキュリティ対策については、令和7年度中に全校（25校）でネットワーク改修を実施し、児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるようWebフィルタリング機能を導入する。 校務支援システムの更新については、秋田県で進めている統合型校務支援システムの機能が充実していて、運用経費等も安価となる見込みであるため、令和7年度中に新たなシステムに切り換えることとした。	
	課題等	・1人1台端末の更なる利活用にあたり、文部科学省が学校の規模ごとに「当面の推奨帯域」としてネットワーク帯域（速度）を公表しているが、県内にはこれを満たす安価なインターネット回線が提供されていないため、今後の事業者の展開を待つ必要がある。 ・学校間で利活用に差があることから、指導する教職員側も研修会や事例、課題の共有を図り、利用しやすい環境を整える必要がある。 ・次世代校務DX環境整備の入り口として、校務系と学習系ネットワークを統合したが、今後は校務用端末と指導者用タブレットを統合し、教職員も1人1台環境にすることの検討が必要。	取組の方向性 □ 継続 □ 廃止検討 ■ 単年度
	学識経験者等意見	この事業も多大な予算が必要と思われる。教職員も児童生徒もきちんと使いこなすことが市教委に対し報いることになると思う。ついにこういう時代が来たかというのが正直な感想である。 保護者の授業参観などで児童生徒が使いこなす姿を見てもらうことが市教委のPR活動となるのでは。備品は配布されて当然ではなく、感謝を忘れず無駄のない使い方をして、未来の大館市民となる児童生徒を育ててほしい。	

重点施策点検・評価表

３－１－１

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課（館）
	① 達人講座の実施		生涯学習課
	活動内容	地域のサークル等の講師（達人）が、小中学生（親子含む）を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施する。	
	点検評価	■ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		今年度新たに3講座（めだかの学校、ぐちゃぐちゃあそび、ドローン・プログラミング学習）を加え30講座実施した。 動物の飼育方法等に関する講座「めだかの学校」が今までにないジャンルとして子どもたちに人気であった。 申し込み方法について数講座申し込みするとなると、申込者の記入漏れ、事務局の入力漏れがあることから、後期募集分から紙だけでなく、QRコードからの電子申し込みができるようにし、効率化を図った。 今後も新たな分野の講座の開催のほか、参加しやすい仕組みづくりに努めていくとともに伝統文化の継承や各サークル活動等のPRに貢献していきたい。 ・令和4年度：22講座（申込者数442人、前年度より 1％増） ・令和5年度：26講座（申込者数527人、前年度より19％増） ・令和6年度：30講座（申込者数512人、前年度より 3％減）	
	課題等	過去4年間、参加者数は増加傾向にあったが、今年度は前年度より減少した。児童生徒数が減少していることのほか、クラブ活動等の練習・大会が盛んになってきたことが要因と考えられる。 来年度以降は申込者数の割合を維持できるよう、現在講師を務めてくださっている先生方に交渉するほか、新たに講座を開講できる講師の先生を探していきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	QRコードの申し込み導入による効率化や、児童生徒の胸を打つような講座内容などアイデアが素晴らしいものがある。申込者などの数値については、あまり気にする必要はないと思う。 達人講座を通じて、伝統文化の継承や各サークル活動のPRなど、広く市民に周知していただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課（館）
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」及び「大館市出前講座」の充実と活用		生涯学習課
	活動内容	【大館人財名簿】高等教育機関（大学、短大）や学校ボランティア、公民館等から人材を発掘し、特技や知識を持つ市民を「人財」として募集・登録するとともに登録情報の更新を行い、学校や公民館などさまざまな学習活動の場で活用を促す環境の整備を図る。小中学校25校、社会教育施設等17か所に名簿を配置するとともに、市ホームページも更新する。（活動報告書を提出していただき、実績を把握する。） 【大館出前講座】市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座（65講座）」を実施し、利用件数150件、受講者数7，000人（延べ）を目指す。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） ■ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		【大館人財名簿】人財名簿への新規登録、活動実績がなかった。これまでに広報やホームページ、出前講座メニュー表に掲載して周知を行っていたが、活動実績は令和2年度より0件である。 令和6年度 登録31人 14団体(令和5年度同様) 【大館出前講座】実施件数、受講人数ともに昨年度より少ない結果となった。内容としては「もしものための救急講座」、「いざというときのための防災講座」等の消防に関する講座、「ボッチャ体験」の実施が多かった。救急講座に関しては、実施件数、受講人数ともに全体の3分の1以上を占めている。メニュー表に記載はないが特別メニューとして実施した内容として、「安心・安全！マイナンバーカードのおはなし」(市民課)、「動脈硬化について」(健康課)、「冬の健康について」(健康課)の3件である。また、昨年実施のなかった「楽しい広報紙づくり入門」「子育て支援の取り組み」の実施があった。 今後も身近な問題や市政の情報などのテーマについて、市民の学習のニーズに応えられるよう市民の学びの機会を積極的に提供していきたい。 令和5年度 実施件数 258件 受講人数 7，514人 令和6年度 実施件数 187件 受講人数 5，683人	
	課題等	【人財名簿】平成23年に発行し運用してきたが、年々人財名簿の利用、登録が減少している。令和2年以降利用がなかったため、令和7年度は制度のあり方を検討する。 【出前講座】メニュー65講座のうち、木育講座、救命講習の出前講座が減少している。これは、出前講座を利用せず、木育体験が可能な施設へ直接出向いていることや救命講習は直接消防署へ申し込んでいるケースがあったことによるもである。また、直接利用のない講座もあるので、市民ニーズにあったメニューの見直しとより一層の周知をしていきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	人財名簿については、形を変えていく方法が望ましいと思う。市民のニーズがあればそのときに修正し、方向性を見直しても良いと思う。 出前講座は65講座を行っているが、人口が減少している中で何が必要か吟味する必要がある。引き続き市民のニーズに応えられるよう学びの機会を提供してほしい。	

重点施策点検・評価表

３－１－３

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課（館）
	③ 公民館事業への青少年の参加促進		中央公民館
	活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全5回延べ70人、ラジオ体操開始・修了大会10団体100人を予定。	
	点検評価	□ 目標を上回る（達成率100％超） ■ 目標どおり（95～100％） □ 目標をやや下回る（80～94％） □ 目標を大幅に下回る（80％未満）	
		わんぱくスクールは全7回延べ参加人数82名。子どもたちの関心が高い「ドローン体験（夏）」、「お菓子作り（冬）」等を中心に講座を開催した。また、子どもたちの保護者が関心を寄せている「子どもの護身術（冬）」、「新しいお札の秘密（冬）」も合わせて開催した。ドローン体験やお菓子作り、子どもの護身術はすぐに定員が埋まり、参加する子どもとその保護者の関心が高いことがうかがえた。 将棋教室は3日間開催し延べ参加人数45名、囲碁教室開催は3日間、延べ参加人数7名、どちらも夏休みに入ってすぐに行ったが、ここ数年どちらも参加者が減少している。対戦を行うことで講師と児童の交流が深まった。 新春書き初め交流会は小学生11名、老壮大学生書道クラブは6名の合計17名参加。老大生は小学生それぞれの状況を見ながらアドバイスを行った。休憩時間に一緒にお菓子を食べながら会話が弾み、異世代交流ができた。 ラジオ体操事業については、4月の開始大会、10月の終了大会のほか、7月にニプロハチ公ドームで大規模なラジオ体操会を開催した。同イベントには広い世代の市民約140人が参加し、ラジオ体操を通した交流の場となった。	
	課題等	わんぱくスクールは、今後も地域の企業や大学等の協力を図りながら、子どもたちと保護者の関心が高い内容で講座を展開する。併せて他の官公庁にも協力を要請し行政と生活に関連した課題も講座に組み入れていく。将棋・囲碁教室は、子どもたちが参加しやすいように青少年の行事を長期休暇期間に集中させて実施しているが、逆に子どもたちにとってはさまざまな行事が集中しているようである。参加者数の減少は児童数の減少も影響していると思われるが、学校では体験できない魅力あるメニューを考え、参加者増に努めたい。ラジオ体操事業については、参加者の減少が大きな課題である。各町内こども会への参加要請のほか、小学校への周知も行っていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	参加人数については、子どもの数が少なくなっており、夏休みは他の行事もあるため、条件が厳しくやむを得ないところもある。人気の講座もあり、メニュー作りをさらに工夫して取り組んでほしい。これからも期待している。	

重点施策点検・評価表

３－２－１

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課（館）
	① 生涯学習推進体制の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、生涯学習推進協議会において協議するとともに地域における学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研さんと活動の充実を図る。社会教育主事の資格取得のための環境整備を行い、生涯学習推進体制へつなげる。（幹事会及び協議会を各年1回開催）	
	点検評価	□ 目標を上回る（達成率100％超） ■ 目標どおり（95～100％） □ 目標をやや下回る（80～94％） □ 目標を大幅に下回る（80％未満）	
		生涯学習推進協議会では、7月に幹事会（書面協議）、8月23日に協議会を開催した。令和6年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。 今年度は、幹事会の意見から大館市生涯学習推進要綱（目的）第1条に記載されている「生涯学習都市『学びあいのまち大館』」は、現在このような宣言や方針はないことから、「こども・おとなが共に学び合うひとづくり」に改正した。 「こども・おとなが共に学び合うひとづくり」は、第8次大館市社会教育中期計画でも基本理念として掲載しており、同計画のテーマである「地域に根ざしたウェルビーイングを目指して」各種事業を展開している。	
	課題等	生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。 生涯学習奨励員には、学習した成果として地域住民が各種行事や学習会などに参加できるよう、学習情報の収集と提供ができるようにしたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	「生涯学習都市『学びあいのまち大館』」は、現在のテーマとしてなじまないように思う。また、生涯学習奨励員の方が、やりがいや特技を生かしてもらうような啓発運動を充実させてほしい。 今まで、さまざまな行事などを継続してきたと思うが、何かを増やしたら何かを減らすべきだと思う。学習成果を地域住民が収集できるよう、学習情報の提供に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

３－２－２

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課（館）
	② 大館学び大学事業の展開		中央公民館
	活動内容	学びによる人材育成、専門的知識の習得、若い世代の公民館利用の促進を主な目的として、市民の学びの場を構築していく。 社会人の学び直し受講者数：R6年度目標　800人	
	点検評価	□ 目標を上回る　（達成率100％超） ■ 目標どおり　（95～100％） □ 目標をやや下回る　（80～94％） □ 目標を大幅に下回る　（80％未満）	
		大館学び大学は令和6年5月に中央公民館事業として開講した。 前年度までNPO法人大館学び大学で運営していたポータルサイトを引き継ぎ、働く学部として5月18日から3月8日までの間に36講座を実施した。 学びの入り口として、大館で活躍している人を講師に迎え、若い世代の公民館利用の促進も図った。 SNSの活用、市民ホールでのチラシ配布、さらに地方紙への募集記事掲載など情報発信に注力したが、延べ受講者数は436人で参加者数の平均は1講座約12人となった。 リピーターを増やすために、10回受講で1回の無料券を取得できる学生証を発行したところ、134人が登録し2人が無料券を獲得した。	
	課題等	学びに関する要望を把握するため随時アンケート調査を行い、市民のニーズに応じた講座を企画しているが、平均参加者数は12人で決して多いとは言えない。 今後もニーズの把握が必要である。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	生涯学習課が委託していたNPO法人から、中央公民館に事業主体が変更になった影響は大きいが、サービスを落とさないようにしなければならない。所管が変わり課題もあるが、縮小された条件の中で、求めに応じていく難儀さは理解できる。 講座数が少なくなることはやむを得ないが、中身の質的な部分を磨き上げていってほしい。	

重点施策点検・評価表

３－２－３

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課（館）
	③ 「大学公開講座」、「大学校市民公開講座」の開催		生涯学習課
	活動内容	市民の高度化・多様化した学習要望に応えるとともに、高等教育機関に対する理解を深めるためにそれぞれの特徴を活かした市民の公開講座を各年2回開催する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、7月２日から4日までの3日間で開催し、社会学、接遇、災害をテーマにした講義を実施、延べ132人が受講した。QRコードでも受け付けしたところ大幅に参加者数が増加した。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、生涯学習強調月間である9月～10月に3回開催し、設計技術体験、WEBの仕組み、木造住宅の耐震診断をテーマに講義を実施、延べ28人が受講した。モノづくりの視点や地震が頻繁に発生する日本の中で、とても重要で関心を寄せられるテーマだった。いずれの講義も私たちの生活に密着した課題や問題を解決するためのさまざまな技術、設計の考え方などを大変分かりやすく講義をしていただいた。	
	課題等	秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、各分野の教授より専門分野の講義を行っていただき、昨年を上回る参加があり、そのうち高校生の参加が目立った。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開講座」は、大学校の特色・専門分野を生かした講義を行っていただいた。大学・大学校の講座は、親しみやすく参加しやすい講義内容で大変好評のため、引き続き関係者と日程調整のうえ、PRと参加募集に努めていきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	大学・大学校では、それぞれの特色を生かし、市民が参加しやすい内容の講義を行っていただいていると感じた。 QRコードによる申し込みなど受講しやすい工夫もされており、高校生も参加しているのがよかった。R7年度から多くの市民に知っていただくため、学校祭と同時開催することは、大変良い試みであり、今後に期待している。	

重点施策点検・評価表

３－２－４

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課（館）
	④ 超高齢社会に対応した生涯学習の充実		中央公民館
	活動内容	公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や、高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学105人全10回、各地区公民館高齢者学級開催（11館）。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		老壮大学は卒業の無い大学であることから、学生の平均年齢は80歳である。60歳代の生き方が多様化しており、60歳代の参加者数は少ない。 老壮大学の講座として、人生100年時代を生き生きと生きるための講話や健康維持の活動がとても好評であり、月1回の参加が生活のリズムを作っているようである。 今年度も城南小学校6年生のゴスペルの発表や、新春書き初め会での書道クラブと小学生の交流などで世代間交流を行った。 今年度実績：老壮大学　全10回学生105名（前年度全10回102名） ほか全地区公民館（11館）でも高齢者学級を実施	
	課題等	老壮大学の運営に関して、運営委員会が主体となって実施してきたが、大学生の高齢化に伴い役員を引き受ける人が激減している。 令和7年度は役員改選で、1人が複数の役を担う形になりそうである。時間をかけて老壮大学の運営方法を検討すべきと思われる。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	老壮大学の役員を引き受ける人がいないことについては、今後時間をかけて検討してほしい。 昔の高齢者と今の同年代の人たちと比較すると、仕事もしており、体力的にも精神的にも違いがある。また、老壮大学という名称は今の時代に合わない所もあり、令和7年度のサブタイトルを「シルバーカレッジ～明るく・楽しく・元気よく～」としたように、変えられるところは変えていってよい。これからも時代の変化に応じて事業を展開してほしい。	

重点施策点検・評価表

３－２－５

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課（館）
	⑤ 障がい者のための生涯学習の推進		生涯学習課
	活動内容	比内支援学校及び障害者施設との連携により、障がい者の生涯学習の機会を創出し、共生社会の実現に向け持続可能な活動の実践研究を行う。 障がい者の生涯学習講座数：R6年度目標7講座	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		文部科学省より事業4年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を5回、障害者にとって自らが望む生涯学習活動や余暇の充実を図る活動を、合理的配慮を受けながら行える共生社会実現への実践研究を継続した。 成果として、①市民（支援者）においては、心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行った。②比内支援学校及び就労施設を訪問しニーズ調査を実施、今年度の講座企画へ反映させることができた。③なんでも発表会は、連携協議会関係者、ボランティア登録者、高校生ボランティアなど多くの方が協力・運営に関わり参加者との交流もあり、共生社会への構築につながった。参加した障害者はステージ上で自らの練習の成果を発表、観客から大きな拍手のほかペンライトや応援グッズを持ち寄り応援する姿も見受けられ会場を盛り上げ一体感が生まれた。 講座全体の参加人数は、生涯学習講座に延べ286人が参加し、うち障害者は72人の参加であった。図書館利用支援事業やはちくんオープン（ボッチャ）など障害者の活動を広げる取り組みには延べ458人、市福祉課及び障害者自立・差別解消支援協議会との連携にて行った障がい者サポーター養成講座に72人が参加、うち22人からボランティア登録していただき、5回の講座には高校生を含む延べ14人のボランティアの協力があった。	
	課題等	課題としては、講座参加者同士のつながりの構築、社会教育施設における障害者が参加できる講座企画、障害者サポーターの増員、講座情報の継続的発信。 また、サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障害理解の機会提供などがあげられる。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	講座参加者のやりがいや目標が定まっており、良い活動だと感じた。心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行っている。事業開始から4年目だが、「なんでも発表会」はだいぶ内容が充実して事業が展開されている。 国の支援後を見据え課題は何か、事業を自立させていくためには何が必要なのか検討する必要があるのではないかと思う。	

重点施策点検・評価表

３－３－１

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	① 学校支援活動事業の推進		生涯学習課
	活動内容	市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		学校運営協議会の構成員として地域学校協働活動推進員が参画し、学校と地域の連携・協働を図った。（R6年度は、25校中23校） ①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。 ②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。 ③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。	
	課題等	学校が抱える課題や地域と連携・協働して取り組むべき課題について、十分な情報共有と一体的な推進を図るため、学校運営協議会の構成委員として、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）が参画できるよう周知・啓発に努めるほか、地域学校協働活動に関して市民の認知度が低いことから、より一層の情報発信を行う必要があると感じている。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	子が学校を卒業した親や保護者の学校に対する興味関心度低くなっていく。無理をしなくてもやれることを実践してほしい。また、近隣の市ではPTAの組織ができないなどの課題が出ている。この事業はこういう課題解決のためにも重要な役割を果たしていると思う。 地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援していただきたい。	

重点施策点検・評価表

３－３－２

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	② 家庭教育の充実		生涯学習課
	活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座（40講座）」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。 家庭教育推進事業:R6年度目標1，850人	
	点検評価	■ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		○「おしゃべりひろばひだまり」 毎月1回程度、全12回全て開催・・・参加者288人（託児含む） ○「子育て講座」 全40講座のうち40講座実施・・・参加者1，702人 ○「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おおとり教室」ふれあいお楽しみ会（9／18モルック・かき氷、12／13生け花・餅つき） ・・・参加者48人、ボランティア6人 ・助産院イスキア菅原光子先生による孫育て講座・・・計3回、参加者66人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会・・・参加者115人（オンライン参加含む） ・特別支援学級での活動支援・・・計1回、参加者計6人 ・「Let’sGo！木育ひろば」・・・計11回、参加者643人 各講座 合計2，874人（3月末現在） 多彩なメニュを実施し、相談対応や情報提供等、保護者が安心して家庭教育を行うための支援を行うことができた。	
	課題等	特別支援学級での活動支援について、今まで講師を外部の方に依頼していたが、今年度は家庭教育支援チームの方に依頼した。来年度も同様に家庭教育支援チームの方に講師を依頼する。また、市内の中学校に希望調査を行い、東中学校だけではなく他の中学校にも対象を拡大する。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	参加者の人数を見ると家庭教育に対するニーズがあることが分かる。子育て中の親への情報提供が重要で、多彩なメニューが多く選択肢が広がっている。 親子で参加できる講座を展開し、保護者が安心して家庭教育を行うための支援を継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	③ 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施		生涯学習課
	活動内容	放課後の児童が「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。各施設の児童の交流を図るため、カルタ大会等の交流事業を行う。（年2回）定例会開催（月1回）	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		今年度もクラブでの季節の行事やイベントを実施し、児童に対して放課後及び土曜日等の体験活動を提供することができた。 交流事業としては、直営全体でのドッジボール大会は参加者が少なく中止したが、カルタ大会については中央公民館で開催したクラブ対抗の本選において保護者の観覧を実施し、クラブ間での交流の場、親子のコミュニケーションのきっかけ作りに寄与することができた。 定例会は毎月1回開催し、定例会終了後に研修会を2回、各クラブの情報交換会を3回開催した。情報交換会では活発な意見交換がなされ、今後のクラブ運営の手助けとなった。	
	課題等	交流事業においてはクラブ間で参加できる児童数の差が大きくなっており、全ての施設の児童が参加しやすい内容、日程について各クラブと協議し改善を図っていきたい。 国の新・放課後子ども総合プランによる高学年児童の受け入れについては、保護者のニーズを確認したうえで、施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。また、支援員の研修の場の充実を図ることが求められている。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	仕事を持つ親にとってはなくてはならない事業で、安心して子どもが過ごせる場所として重要な施設となっている。一方で支援員などが子どもの集団と向き合う必要があり、体力的、精神的にも対応に難儀する場合もあると思う。 支援員などの力量の差の解消や悩み事もあると考えられるため、資質の向上と業務のパフォーマンス向上のためにも、研修の充実が必要なものとなる。	

重点施策点検・評価表

３－３－４

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	④ 音楽療法士派遣事業		生涯学習課
	活動内容	継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。全20回予定。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に20回の派遣を実施した。 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。音楽を介して心と体を活性化させ、発達障害の主な特徴となる人とのやりとり、言葉によるコミュニケーション、行動すること、感情の安定に対して効果が期待されている。 特別支援学級や少人数単位でも利用可能で、いろいろな楽器や楽しい手法を用い、子どもが自らやりたくなるようなセッションで、コミュニケーション能力や共感力の向上に努めている。	
	課題等	上半期の申し込みが多かったため、例年よりも早く全回数を実施することができた。リピート率も高く今後も音楽療法士の派遣事業を継続していきたい。 また、伝達ミスにより、当日音楽療法士を派遣することができなかった回があった。来年度は依頼先の施設、音楽療法士との情報共有を徹底したい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	音楽療法士派遣事業には、大館市に在住している一人の方に依頼され、多忙な中で事業を継続している。音楽を介して心と体を活性化させ、感情の安定に対して効果が期待される。 年20回の派遣は予算面の制約もあると思うが、重要な事業でもあるので継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	⑤ 青少年健全育成活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年健全育成推進方針を策定し、関係機関と連携を図りながらさまざまな活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。	
	点検評価	■ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。 また、7月6日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、Odate Marching Band TEDAOLE and 大館ジュニアバンドによるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田県警察本部職員による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と社会を明るくする運動の啓発に努めた。（参集者数149人）	
	課題等	さまざまな団体に参加のご協力をいただいており、目標人数よりも多い人数が参加している。今後も7月第1土曜日に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催することとしたいが、プログラムが毎年同じような内容であるため、工夫を図る必要があると感じている。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	青少年健全育成に対する市民の意識高揚と、青少年健全育成のための環境整備を図るため、市民の集いを行っていることで少年の非行は顕著な減少となっている。 長い歴史を持つ活動であり、定着しているため継続してほしい。	

重点施策点検・評価表

３－３－６

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	⑥ 少年相談センターの活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。	
	点検評価	□ 目標を上回る（達成率100％超） ■ 目標どおり（95～100％） □ 目標をやや下回る（80～94％） □ 目標を大幅に下回る（80％未満） 青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。 また、少年指導員28名により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動、神明社祭典に伴う各講練習時の巡回活動、卒業式の市内巡回活動、生徒指導主事協議会との合同巡視などを通して、青少年の健全育成に努めた。 （少年指導員の年間活動延べ200人を予定）	
	課題等	令和6年度の相談件数は延べ402件となっており、前年同期比で減少したものの、ほぼ横ばいで推移している。（前年度実績：413件） また、2人体制による相談センター業務であることから、現状の相談件数に対応できるよう業務内容の見直しを図りたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	少年指導員による巡回活動は、非行の防止に一定の成果が見られたことから巡回活動の中止を検討してはどうか。 引き続き多くの件数を行っている相談業務に集中していくため、積極的に業務内容を見直して効率化を図り、青少年の健全育成に寄与していただきたい。	

重点施策点検・評価表

３－３－７

基本目標				
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援			
重点施策				
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る			担当課（館）
	⑦ 社会教育委員の活動の充実			生涯学習課
		活動内容	生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上（延べ）の参加を目指す。	
		点検評価	■ 目標を上回る （達成率100％超） □ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 北教育事務所主催の学校訪問は6回（12校）、市教育研究所主催の授業見学は6回開催された。 北鹿地区社会教育委員研修会は、令和6年10月9日に大館市中央公民館において開催された。本市で行われている「障がい者の生涯学習」事業の取り組みをPRした。 また、本市からは委員長ほか3人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。 そのほか、当課主催の講座や研修会など計18回の案内に延べ47人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言など、学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。 令和4年度 訪問等 延べ参加人数 50人（18回） 令和5年度 訪問等 延べ参加人数 54人（23回） 令和6年度 訪問等 延べ参加人数 47人（18回）	
		課題等	学校訪問等を通じて、ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向け、見える活動を展開した。 また、今年度は北鹿地区社会教育関係委員等研修会で他市町村との交流、意見交換ができたこと、さらに東北地区社会教育研究大会に参加し、他県の事例を学ぶことができ充実した活動となった。来年度に向けてより一層研修会への参加の機会を増やしていきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
		学識経験者等意見	他市町村や県外の方々と情報交換するための研修会・研究大会は、社会教育委員としての職務を果たすため、大変重要な事業のひとつである。 積極的に参加していただくため旅費などの予算措置を行い、一人でも多くの方が参加できるよう教育委員会として支援していただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		担当課（館）
	① 「まちづくり会議HACHI」の活動への支援		中央公民館
	活動内容	大学や大館青年会議所などと連携し、「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続して実施するとともに、「HACHI」メンバーに対し、未来づくりについて意見を出すなど幅を広げる活動へ助言と支援していく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 令和6年度は鳳鳴高校生11名、桂桜高校生7名、計18名が参加。大館巡り並びにハチウィンの開催のほか、生涯学習フェスティバルでは、バルーンアートや輪投げコーナー等を設置し、来館した子どもたちとの交流の場を作った。 特に昨年実施できなかった大館巡りでは、市内の名所や伝統工芸、企業見学と各所で説明を聞き、「大館」を学ぶ良い機会になった。（大館巡りは後日ケーブルテレビで放送された。） 今年度実績：活動回数11回延べ67名	
	課題等	大館巡りでは、より積極的に意見や疑問を発表するよう、質疑応答の動線を作るべきだと感じた。また、活動後期はどうしても3年生の参加が少なくなってしまうため、1、2年生を中心にメンバーを募るのがよいと考える。 ハチウィンには社会部以外の鳳鳴高校生が参加してくれたことから、部活動の垣根を超え、参加者増につなげたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	前年度の取り組みを基に、工夫しながら次年度の事業を実施している。高校生の情報発信は、年配者が思いつかないような方法での発信力もあり期待したい。高校生のまちづくりのイメージがあるが、人づくりというイメージの側面もある。 引き続き、1、2年生をターゲットに参加者を募り、ハードルを少しずつ上げながら更なる展開になるよう期待する。	

重点施策点検・評価表

３－５－１

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	① 「生涯学習フェスティバル」の実施		生涯学習課
	活動内容	社会教育施設・各種機関・団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人一人の生涯学習への意欲を高める。メイン開催日（２日間）の会場となる中央公民館の来場者数目標を2，000人とする。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は8，982人。 9月28日、29日の中央公民館会場では、初めてキッチンカーが出店したほか、みんなの木育ひろば、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示、大館桂桜高等学校生徒によるものづくり体験など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。２日間の来場者実績は、1，776人となり、目標値をやや下回った。 各団体の生涯学習の実践の場と生涯学習を始める機会を提供し、市民の生涯学習の意欲向上を図ることができた。また、関係機関・団体などの協力により、新規に3つの体験できるコーナーを設置し、マンネリ化しないように対応した。	
	課題等	引き続きキッチンカーなど食事を提供できるブースを設けるほか、さまざまな体験ができるブースをはじめとする市民の「やってみたい」想いを実現できるようなイベントとしたい。 また、行事・イベントが重複しないよう庁内や関係団体などと調整し開催する。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	新しいものを導入して目標を変更することは良いことであるし、継続的に行うことも大切である。 生涯学習の実践の場である作品の展示、市民の生涯学習の意欲向上を図り、参加者の交流、食の提供などを合わせて行っていただきたい。 同じことを3年やった効果を見極め、効果がないことは見直しすることもときには必要なことである。	

重点施策点検・評価表

３－５－２

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	② 地区住民や関係団体との連携強化		中央公民館
	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。 また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。 今年度は、中央公民館を主会場に11月に大館市総合防災訓練が、2月には消防避難訓練が行われ、公民館利用者や学校、町内会などと共催で避難訓練を実施している。	
	課題等	公民館は、地域コミュニティーの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。 今後もより良い協力関係を築くよう努力し、有事における地区災害対策本部としての役割を想定した訓練を実施していく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	公民館はなじみのあるコミュニティの中心地である。地区公民館同士の連携的な動きや、合同で事業を展開しているところは新たな側面もあり評価できる。 地域の防災について、人は問題や課題に直面しないと行動しないものなので、災害による危機的な状況を想定して、引き続き、工夫改善しながら地域の方々と一緒に訓練を続けてほしい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	③ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化		中央公民館
	活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		今年度は、上川沿公民館のエアコン更新工事（6月補正）や、比内公民館味噌内分館のルームエアコン購入（6月補正）等が実施された。 また、旧青少年ホームの一部解体や、解体に伴う内部の廃棄物収集運搬処理業務も行われた。 今後も、地区住民や公民館利用者等の要望をもとに、施設の修繕や更新を図る。	
	課題等	地区公民館や分館の一部において、老朽化の著しい施設や備品がある。地区住民や利用者の要望を整理し、修繕計画を策定し、あわせて施設管理の負担を軽減する方向での施設改修（例：屋根雪が円滑に排雪できる改造等）に取り組む必要がある。 修繕等の予算確保は今後厳しくなることが予想されるが、地区住民の生涯学習の拠点確保と地域コミュニティー維持のため、優先順位を設定したうえで予算確保に最大限努力する。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	多くの地区公民館を所管しているが、順番に建物を修理したとしても10年も経てば、また改修が必要な場合がある。職員は減り、予算も縮小され、状況は悪くなっていく。課題を先延ばしにしても、いつかは大きな問題に直面すると思うので、先進事例などを参考に工夫して取り組んでほしい。	

重点施策点検・評価表

３－５－４

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	④ 公民館事業の充実と参加促進		中央公民館
	活動内容	公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。 社会教育講座：R6年度目標　1講座	
	点検評価	□ 目標を上回る　（達成率100％超） ■ 目標どおり　（95～100％） □ 目標をやや下回る　（80～94％） □ 目標を大幅に下回る　（80％未満） 今年度も上川沿公民館の「春を呼ぶ音楽祭」や十二所公民館の「かまくらやき」など、各地区独自の事業のほか、二井田公民館と花岡公民館合同の館外研修を開催し、他地区との交流を図った。 また、昨年度地区公民館5館が協力して比内公民館で開催した「サタデーナイト公民館ディスコ」は、今年度も3月に開催し大変好評だった。	
	課題等	地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのため、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動（社会貢献）を活用して事業を充実させる。 また、他市町村を参考にしたり、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	アイデアを凝らして頑張っているという印象がある。限られた条件の中で各地公民館同士の連携も重要であり、新たな展開につながることを期待する。 地区公民館は、これまで蓄積された地域活動の継承や、世代間交流による人作りなどの重要な課題に取り組んでいることから、引き続き、充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	⑤ 「大館ふるさとカルタ」の普及とカルタ大会の開催		生涯学習課
	活動内容	カルタの普及を目的にカルタ大会を開催する。また、カルタを通してふるさとの歴史を学び、郷土愛を育む機会を作る。カルタ大会の運営に高校生ボランティア（目標5人）を募り、児童との交流と審判・読み手の育成を図る。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		今年度で5回目の開催となったカルタ大会では、市直営の放課後児童クラブ8クラブから1年部6チーム、2年部7チーム、3年部6チームの計54名が参加した。各クラブの予選を勝ち抜いた児童が参加し、中央公民館で本選を行った。 本選では審判や読み手として、中・高校生3人にボランティアとして協力いただいた。また、空きコートを自由に試合ができる場として開放したことで、児童と保護者が一緒にカルタを楽しみ、保護者にもふるさとカルタに興味を持っていただいた。 カルタ大会に向け、本選に参加する・しないに関わらず多くの児童が大館ふるさとカルタで遊ぶ姿がみられ、普及の一助を担えたものと考える。	
	課題等	人数不足のため、今年は1クラブ不参加での開催となった。各クラブの人数集めに苦労したが、学年合同チームを作るなど工夫し、カルタ大会に参加していた。カルタ大会を今後も継続して開催していくとともに、大会の時期だけではなく、児童クラブにおいて日頃から大館ふるさとカルタに親しめるよう新たな取り組みを見い出したい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさとキャリア教育に直結する分かりやすい事業で、放課後児童クラブの子どもたちが「大館ふるさとカルタ」を通じて、郷土愛を育むための波及効果が高い事業となっている。 大館市民に周知できるいい活動だと思う。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課（館）
	⑥ 木育事業の実施		生涯学習課
	活動内容	移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。 木育事業の回数：R6年度目標27回	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		前年度に引き続き移動型木育ひろば「Let’sGo！木育ひろば」を、駅なか交流センター、介護老人保健施設、児童センター等で計11回実施し、幼児から高齢者まで延べ643人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。 今年度、初の市単独で開催した「みんなの木育ひろば」については、2日間で延べ1，065人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。 また、開催にあたり市内の木育インストラクター延べ31人、高校生6人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。 【R6年度活動実績】 ①Let’sGo！木育ひろば 24回 ②出前講座 2回 ③みんなの木育ひろば 1回 計27回	
	課題等	より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。 秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクターによるお話やイベントを通して周知していきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	今後の展開が期待できる事業で、インストラクターの活動の場を増やし、木の感触や香りを感じながら世代間交流の機会創出を図っている。 自然環境の保全、木材の良さを学ぶ機会に結びつくため、継続して事業を展開していただきたい。	

重点施策点検・評価表

３－６－１

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		担当課（館）
	① 図書館運営に関する進行管理		生涯学習課
	活動内容	指定管理者の提案書に基づく適正な運営への必要な支援と指導を行うとともに、第四期大館市読書活動推進計画を指定管理者と共有し、図書館サービスの向上を図り「生涯読書」活動を推進する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		指定管理者による令和6年度事業計画と数値目標を提出してもらい、計画的な図書館及び松下村塾の利用促進と読書の啓発活動に努めている。 利用促進としては、古本バザーや工作体験などの多彩な催しを行う図書館まつりの開催のほか、絵画や絵手紙等の展示会、大館市に縁のある吉田松陰と松下村塾の魅力を幅広く市民に伝える事業など、さまざまなイベントを開催している。 また、読書啓発活動としては、今年で55回目となる大館市読書感想文コンクールの開催や、本を借りてビンゴゲームをする「図書館でビンゴ」、読書の幅を広げる「本のおたのしみ福袋」など、工夫を凝らした読書啓発活動に努めている 。 （来館者数：目標137，500人、実績134，913人） （貸出冊数：目標198，000冊、実績196，921冊）	
	課題等	人口減少や社会情勢の変化を踏まえながら、図書館等の利用促進や読書の啓発活動として、読書環境の整備や情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	図書館が文化の発信場所として、また、今の時代だからこそ紙の本に触れることができる安らぎの場として大切である。展示にも工夫がされていると感じる。 読書環境の整備や情報発信を充実させて、さらに魅力のある、市民に親しまれる図書館運営に努力してほしい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課（館）
	① 芸術文化の鑑賞及び体験機会の提供		生涯学習課
	活動内容	指定管理者との連携により、ほくしか鹿鳴ホールの自主事業及びさらなる鑑賞の機会と充実を図るとともに、文化庁等が所管する各種事業の情報を学校、文化施設、関係団体へ積極的に周知、活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		指定管理者による令和6年度事業計画を提出してもらい、計画的な自主事業等の開催と施設の維持管理により施設利用の促進に努めている。 大館ジュニアコーラスやヴァイオリンクラブなどの次世代の担い手育成事業のほか、市民参加型のピアノマラソンの開催や7年ぶりにNHKのど自慢を開催するなど良質な鑑賞機会の提供など芸術文化の振興に努めている 。また、木育をテーマに木のおもちゃの遊び場を提供する「もくもくひろば」を定期的に開催し、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に来場してもらえるイベントを開催している。 指定管理者が自主事業として 学校における「文化芸術鑑賞・体験推進事業」を令和7年度事業に申請し、令和7年1月24日に採択された。講演団体は「仙台フィルハーモニー管弦楽団」で、令和7年11月12日に「ほくしか鹿鳴ホール」で実施予定となっている。中学生を対象にした事業で、質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会の確保と子どもたちの豊かな創造力、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、優れた文化芸術の創造につながることを期待している。 （来館者数:R5年度61，714人、R6実績69，075人）	
	課題等	ほくしか鹿鳴ホールも建築から40年以上が経過し、改修等を行いながらも年々経年劣化が目立ってきている状況ではあるが、今後も市民とともに楽しみ・喜び合える文化事業の実施や、多彩で魅力ある集客力のあるイベントを開催し、文化芸術活動の継続・発展に努めていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	良質な鑑賞機会の提供など芸術文化の振興に努めている。また、仙台フィルハーモニー管弦楽団には、子どもたちの豊かな創造力、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、優れた文化芸術の創造につながることを期待している。 今後も利用される施設であり、大館市民だけではなく他市町村からも来られると思うので、みんなが喜んでもらえる施設として、定期的に設備の補修などを行っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課（館）
	① 企画（特別）展の開催とホームページを活用した効果的な情報発信		歴史文化課
	活動内容	大館の歴史や自然及び文化財等について、市民の関心を高めてもらえるように、端午の節句展や絵画展、おひなさま展などの企画展を開催していく。市のホームページやフェイスブック、X（旧ツイッター）等を活用して周知し、リアルタイムに情報発信していく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		郷土博物館や鳥潟会館などの施設情報・天然記念物・イベントなどをお知らせするホームページの更新や、SNS（FacebookやX（旧Twitter））を積極的に活用し、情報発信を行った。常にSNSでの発信を心がけ、昨年度の1．5倍の件数（約300件）を発信することができた。 10月6日に開催した「鳥潟会館庭園名勝指定記念お茶会」について、広報おおだて、ホームページ、新聞、テレビ、SNSで情報発信し、245人の参加があった。 「大館のとんぶり製造技術」が国の登録無形民俗文化財として登録されることとなったことや「田代岳の岳参り作占い行事」が県無形民俗文化財として指定されることとなったこともタイムリーに情報発信することができた。また、長走風穴館のYouTube動画やニホンザリガニの動画も発信した。 郷土博物館の企画展は、郷土の画家を含む芸術家の絵画や市内在住元教諭の写真展等を開催し、市内外から多くの方にご来館いただいた。今後もニーズに合わせて企画していきたい。	
	課題等	各施設への見学の機会を増やすため、地元新聞やホームページ、SNSによりタイムリーにPRし、幅広い情報発信に努める。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	さまざまなツールによる、情報発信の効果や影響を感じ取れる場面が多くなってきた。 県内はもちろん、県外や海外に向けて発信できる内容がたくさんあるので、限られた人員だとは思うが、内容を吟味しながら展開してほしい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課（館）
	② 博物館講座等の開催と研究紀要の発行		歴史文化課
	活動内容	北鹿地域の市町村へ連携を呼び掛けて、各地域の歴史や自然、文化財などについての博物館講座を開催する。また、大館郷土博物館において発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と協力・連携して、市民に学びの機会を提供していく。また、自然や歴史、文化財などについての研究紀要を発行する。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 市の歴史についての出前講座を3件実施した。 子どもたちの知的探求心を刺激し、科学に関心を持つきっかけを提供するための科学教室「わくわくサイエンス」は、5回実施した。 また、2月には北鹿地方の自然、歴史、芸術をテーマに「おおだて博物館講座」を開催した。はじめに県立博物館の職員から、「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」についての講演を行い、続いて当博物館職員や地元歴史研究会の方が発表し、多岐にわたる内容について学習していただいた。 特別展・イベント等は、「端午の節句展」、「松山尚 『ニンギョ様を祀る』写真展」、「田中孝一氏を偲んで 大館郷土博物館所蔵・戸嶋靖昌全作品展」、「企画展 大館城跡・金坂遺跡～令和4年度発掘調査成果展～」、「おひなさま展」を4回開催した。 また、大館の自然や歴史、文化などに関する研究紀要「火内」を発行した。	
	課題等	北鹿地域の市町村にある自然や歴史、文化財などについて、その魅力を広く発信するために、連携して博物館講座等をオンラインでの視聴も検討して開催していきたい。 また、市民を対象にした自然や歴史、文化財などについて、各種講座を開催し情報発信して、学びの機会を提供していきたい。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	計画的に事業を展開している印象を持った。これまでの事業は十分定着していると感じている。市民も楽しみにしているし、子どもの知的好奇心や探求心を刺激している。長年、培ってきたものを大事にしながら普及、拡大していってほしい。 広域連携に関しては、是非とも何かの形で実現してほしい。人口減少で難しい時代に入ってきているが、大館に立ち寄った方が北秋田や鹿角に行く流れができれば面白い。その核としての役割に期待したい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		担当課（館）
	① 大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携した事業の推進		歴史文化課
	活動内容	大館市郷土芸能保存協会に加盟する団体の郷土芸能の記録保存や継承、公開する機会を支援していく。また、市内に存在する文化財の公開や保護活動などを行っている大館市文化財保護協会の事業を支援する。	
	点検評価	□ 目標を上回る（達成率100％超） ■ 目標どおり（95～100％） □ 目標をやや下回る（80～94％） □ 目標を大幅に下回る（80％未満）	
		大館市郷土芸能保存協会加盟団体は、きりたんぽまつりやアメッコ市などのイベントで、酒こし舞や獅子踊りなどの郷土芸能を市民に披露した。 大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会は、10月5日から7日までの3日間、中央公民館で開催した。今回は第52回目で、「狩野家三人」をテーマに、史料、絵図、写真を展示したほか、鎌倉～江戸時代の刀剣などを展示し、市民の関心を高めることができた。	
	課題等	大館市郷土芸能保存協会は、高齢化や後継者不足などにより、活動を継続していくことが難しい状況となっている。 地域の郷土芸能を継承していくため、小中学校等での活動の支援を継続していく必要がある。また、郷土芸能の記録保存について検討する段階にあると思われる。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	人的な課題があり、維持継続していくことが大変難しくなってきている。それに対しての知恵やアイディアが必要になってくるが、記録保存は重要である。記録保存しておけばいつか掘り起こすことは可能となる。 文化財保護委員の方々の知見も参考にしながら、できないところは思い切って休止や違う方法で残すことも考えていかなければならない時代になってきたと思う。十分な話し合いが必要と考える。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課（館）
	① ニホンザリガニの生息地再生と増殖		歴史文化課
	活動内容	天然記念物「ザリガニ生息地」の再生を目指す事業が令和6年度で8年目を迎える。第1人工生息地においては、生息個体数がおよそ30匹程度と定着しており、これを維持していけるように生息環境を適切に管理し、地元高校の生物部によるモニタリングを行っていく。また、3年目となる第2人工生息地の造成事業を計画的に進める。ニホンザリガニの増殖技術の確立に向けて、専門家など関係者と情報交換していく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満） 天然記念物を保存する気運を醸成するため、大館郷土博物館と男鹿水族館での飼育展示を継続し、教育普及に努めた。 令和元年度に整備した第1人工生息地のモニタリング調査を、大館鳳鳴高校生物部に協力していただき、行った。5年続けて30匹以上の生息が確認されており、個体が定着していると考えられる。また、柵の周囲に植えた草木も順調に繁茂しており、生息環境として整ってきている。 また、入札不調により、令和6年度に繰り越した令和5年度分（2年目）の第2人工生息地創出工事は終了した。令和6年度分（3年目）の創出工事へスムーズに移行し終了した。	
	課題等	第1人工生息地でニホンザリガニの生育が安定してきているが、博物館内での水槽飼育による増殖技術がまだ確立されていないため、引き続き専門家の助言や協力を得ながら研究していく。 第1人工生息地のモニタリングを継続し、ザリガニが安定して生息できるよう環境を維持していく必要がある。また、第2人工生息地は令和7年度からモニタリング調査を行うとともに、一部フェンスと門扉を設置する予定。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	長年の取り組みに頭が下がる。大館の環境を守るため、10年、20年、100年先を見据えながら、長い時間をかけて取り組んでいく施策である。 職員はこれからも代わっていくと思うが、生息地を守るために頑張ってほしい。大きなテーマであり、可能な限り市民への情報発信に努めてほしい。市民に出せる部分は積極的に発信していただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課（館）
	② 市内遺跡発掘調査及び記録・出土品整理		歴史文化課
	活動内容	新庁舎建設事業に伴う大館城跡の発掘作業により、出土した遺物の整理、記録、保存を行い、大館城跡全体の発掘調査記録報告書の刊行に向けて作業していく。また、市内の官民の開発事業や住宅建築等に係る発掘調査及び試掘・確認調査を相手方の理解を得て連携して適時対応していく。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		令和3年から令和5年に行った、新庁舎建設事業に伴う旧庁舎建物跡地の現場発掘作業で出土した陶磁器や木簡などについて、発掘調査報告書の刊行に向け、整理・記録・保存を行った。 また、この大館城跡発掘調査結果について、大館市教職員夏季研修会より出前講座の依頼があり、担当者が講座で説明し、関心を高めることができた。 三ノ丸地内で秋田県信用保証協会大館支所の事務所新築工事に伴い、5月から6月にかけて大館城跡発掘調査を行い、6月29日に現地説明会を開催した。市内外から多くの方が参加し、文化財に対する保護の意識を醸成することができた。 官民の開発事業に伴う、遺跡の詳細分布を確認するための発掘等調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査が1件、県営圃場整備事業や県ため池整備事業などに伴う試掘・確認調査を4件を実施した。	
	課題等	令和5年度までで完了した新庁舎建設事業に伴う発掘作業で確認できた遺構や出土品などについて、発掘調査報告書の刊行に向けて、その調査記録や出土品の整理・記録・保存を着実に実施していく。 大館城の歴史や埋蔵文化財への興味・関心を高めていくために、発掘調査の成果についての資料展示や講座等などを開催していきたい。 また、市内の開発事業等に伴う発掘調査についても、理解を得ながら進めていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	丁寧かつ慎重な活動が求められる施策である。大変だなと思うと同時に有り難いと思っている。昔とつながる、歴史を感じさせるもので歴史文化課にとって重要な施策である。専門性が必要なため、人的な充実が図られればよいが。 地道に取り組んでいる一年一年の積み上げは、大きな成果や財産になると思う。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課（館）
	③ 鳥潟会館庭園の国指定後の保存と活用		歴史文化課
	活動内容	鳥潟会館庭園が令和6年度に国名勝に指定された場合、庭園の適切な維持と保存を図ることを目的に「保存活用計画」の策定に向けて準備していく。また、主屋について関係機関と連携し、重要文化財の指定を目指す取り組みを始める。	
	点検評価	□ 目標を上回る （達成率100％超） ■ 目標どおり （95～100％） □ 目標をやや下回る （80～94％） □ 目標を大幅に下回る （80％未満）	
		これまでの努力が実を結び、鳥潟会館庭園が令和6年10月に国の名勝に指定された。積極的に情報発信に取り組み、内外に広く周知することができた。 庭園の本質的価値を保存し、子や孫世代に継承するため、令和7年度に「保存活用計画」を策定する。計画の策定委員会を設置するため、委員の人選や予算の計上などの準備を進めた。 また、母屋の重要文化財指定を目指すため、国内の重要文化財指定に向けた調査報告書作成に実績のある事業者について情報収集を図った。	
	課題等	保存活用計画は、庭園および関連建造物の適切な保存と活用を図る事業を行うための基盤となる重要な計画であるため、国や県の指導を仰ぎながら進めていきたい。 また、母屋の重要文化財指定に向けて、県と連携して調査事業の着手について準備をしていく。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	タイムリーな話題が続々と入ってきている。情報発信に伴う人の動きは、私も地域の住民として感じ取れている。ますます活性化が図られることを期待する。反面、維持管理について大変なこともあると思う。保存活用について、頭を悩ませることもあろうかと思うが、うれしい悲鳴と考えてほしい。 母屋については難しい要素もあろうかと思うが、知恵を出し合い頑張っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
4	歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		担当課（館）
	① 歴史的風致維持向上計画の事業に取り組む民間組織への支援		歴史文化課
	活動内容	文化遺産活用まちづくり実行委員会が取り組んできた事業を活用し、郷土の伝統芸能の継承と後継者の育成につながるよう、関係団体と連携して取り組んでいく。	
	点検評価	□ 目標を上回る（達成率100％超） ■ 目標どおり（95～100％） □ 目標をやや下回る（80～94％） □ 目標を大幅に下回る（80％未満） 文化庁の補助による文化遺産活用まちづくり実行委員会の事業が令和4年度で終了し、昨年度と同様に6年度も実行委員会の加盟団体が、それぞれ補助事業の成果品を活用したPR事業などを展開した。 大館神明社例祭では、各町内でお囃子や踊りを継承し、コロナ禍前の通常の状況で開催することができた。 建築士会によるヘリテージマネージャーの講演会は、事務局担当会社が通常業務多忙のため準備ができず、開催できなかった。	
	課題等	伝統芸能組織の後継者が減少しており、文化遺産活用まちづくり実行委員会への新規加入には至らなかった。 今後も伝統芸能の継承と維持保存に向けて、関係団体と取り組んでいく必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等意見	今後、人的な部分が大きく関わる。困難さはますます出てくるだろうが、大館神明社の例祭などはコロナ禍前の状況に戻りつつあるとのこと。失われたものも当然あるが、新たにそこから生まれてくるものもあると思う。その辺りも注視して、今後も取り組んでいただきたい。 令和6年度は、開催できなかった講演会などが開催されれば励みにもなる。頑張っていただきたい。	